

電気のふるさと

特集

「協働」と「連携」のむらづくり⑧ ～青森県東通村の教育改革事業～
『教育立村』を目指して先進的なむらづくり

■わがまち自慢 ～村長室から～
茨城県東海村

■電源地域情報ひろば
平成26年4～6月のイベントカレンダー

■電源地域振興トピックス
町の活性化と“再生”に向けた各地の取り組み

わがまち自慢

～村長室から～

とうかいむら
茨城県東海村
やま だ おさむ
山田 修 村長



私ども東海村は、「J-PARC」など世界の最先端科学技術の研究施設が集積するまちとしてよく知られていますが、実は古くからの貴重な文化遺産を持つまちでもあります。

村内には多くの神社仏閣があり、それぞれ古い歴史を持っています。中でも、村松^{だいにんぐう}という地域にある「茨城一の宮・大神宮」は、和銅元年（708）の創建と伝えられ、江戸時代（元禄年間）に水戸光圀公が神殿を造営、伊勢神宮より分霊を奉還して大神宮と称しました伊勢神宮の内宮にあたり、「茨城のお伊勢さん」と親しまれています。裏手の高台からは白砂の浜に緑の松が映える海岸を一望することができます。

また、その隣の「村松山虚空蔵堂」^{むらまつさんごくぞうどう}は大同二年（807）に弘法大師によって創建されたと伝えられています。本尊の虚空蔵菩薩は日本三体のひとつとして、県内外から厄払いや出世開運を祈願する多くの参拝者が訪れています。正月は初詣客で大変な混雑を見せるところです。

海側の、黒松の生い茂る林の中に「^{むら}邨（村）松晴嵐」という碑がありますが、これは幕末の藩主水戸斉昭公の書で、藩政時代からこの地が、心やすらぐ風光明媚なところだったようです。斉昭公は子弟に自然鑑賞と健脚鍛錬を図るために、藩内に8つの景勝地を定めましたが、この

地もそのひとつに数えられています。

昨年の10月、この村松エリアで「大空マルシェ」が開催されました。東海村の文化と歴史を次世代に伝えようと観光協会が主体となって開かれ、村内外から多くのお客さんに来ていただきました。工芸品の展示販売やミュージシャンのライブなどで盛り上がったわけですが、このときに観光ボランティアによる「エリアツアー」も行いました。

観光ボランティアは、地域のみな達自らが動いてできたもので、その養成を行って、登録者は30名ほどになっています。地域自らが考えて行動する、というかたちで、行政はそれを支えるということになっています。

このように、地域住民はとて高い意識を持っています。東海村の村民の意識の高いこと、これが私どもの自慢のひとつです。

自らの課題に対して何をすべきか、と考える行動する村民が多く、「行政はうかうかできないぞ」と、いつも職員に言っています。

一昨年6月に「東海村自治基本条例」を制定しましたが、その中で「誰もが協働し、参画できる、住民による自治の実現」を掲げています。高い意識を持つ村民の皆さんの様々な意見を組み合わせれば、新しいものができる、と期待しています。

皆さんご存知のように、東海村の特産品は「干しイモ」です。茨城県はサツマイモ栽培の北限になっていますが、その生産量は全国一で、その主な生産地が東海村と、お隣の、ひたちなか市です。このサツマイモによるスイーツづくりをテーマに「地域のじまんづくりプロジェクト」（平成25年度 経済産業省 資源エネルギー庁事業）にも参加しています。

村内でJAが経営する「ファーマーズマーケット」には土・日になると、村外から多数のお客さんが、干しイモを求めに来られているようです。

栽培農家数は少ないのですが、ブドウと梨も東海村の特産品です。

最後に、私どもの村には、古いものから最先端のものまで、様々な地域資源が存在しています。そして、村民の村に対する思いも大きな力になると確信しています。

こうした村民の皆様とともに、東海村のポテンシャルを活かした持続可能なまちづくりを進めていきたいと思っています。（談）

自慢の干しイモ



「茨城一の宮・大神宮」



「村松山虚空蔵堂」



ファーマーズマーケット



水戸斉昭公の書「邨松晴嵐」という碑



「協働」と「連携」のむらびつら⑧
 青森県東通村の教育改革事業

『教育立村』を目指して
 先進的なむらびつら



最近、教育制度そのもののあり方を含めた教育改革の動きが、全国の自治体で加速している。今の6・3制が始まった当時と比べ、児童の身体的発達が2～3年早まっているともいわれている。また、少子化が進む中、地域における学校経営のあり方も大きな課題となっている。今回は青森県東通村(ひがしどおりむら)における教育改革の実情をお届けする。

1

むらびつらの戦略のむらびつら

まさかりの形をした青森県下北半島の背の位置にある東通村は、総面積294.39km²の広い地に、約65kmに及ぶ沿岸線を有し、29集落が点在している。

平成16年の時点で、東通村には小学校16校、中学校6校があった。学校は地域・集落の文化やコミュニティ活動の中心としての役割を担い、地域住民に親しまれていたが、人口に対して学校数が極めて多く、うち4校は小・中学校の併置校、9校は複式学級を余儀なくされる極小規模校という状況にあった。

ところが、文化・地域活動の中心としての役割を果たしつつも、それらの学校は、いつしか子ども達の学力を高める機能を構造的に弱めているという矛盾も抱えていた。進学状況や各種学力調査において、ほとん

ど全ての教科で満足できる水準に達していない状況を招くこととなり、多くの子ども達にとって、決して恵まれた教育環境とはいえなかった。住民や多くの保護者も、そうした危機感を募らせていた。

また、周知のように東通村には原子力発電所が立地している。

子ども達が科学技術に関心を持ち、国際人として活躍できる力を育み、考え、実践し、自信を持って、大きく社会に羽ばたくことができる教育を施すことが必須となっていた。



東通村情報

【人口】7,079人(平成26年2月末現在)
 【面積】294.39平方キロメートル
 【発電所データ】
 東北電力(株)東通原子力発電所
 (1号機:沸騰水型軽水炉 出力110万kW ※運転停止中)(2号機:改良型沸騰水型軽水炉 出力138.5万kW ※計画中)
 東京電力(株)東通原子力発電所
 (1号機:改良型沸騰水型軽水炉 出力138.5万kW ※建設(中断)中)(2号機:改良型沸騰水型軽水炉 出力138.5万kW ※計画中)

【本特集問合せ先】
 東通村教育委員会 教育政策室
 ☎0175-27-2111(代)



【写真】1 小学校の英語授業風景
 2 東通小学校
 3 東通中学校
 4 こども園ひがしどおり
 5 開放的な小学校低学年の教室

「教育環境デザインひがしどおり21」の主な詳細デザイン(一部抜粋)

目標 ★21世紀の国際的リーダーと村をリードする次世代の優秀な人材を輩出する
★子供を持つ世帯に魅力的かつ先進的な教育の村として確立し、定住志向を高め、県内外からの移住取り込みを図る

幼小中一貫教育デザイン	就学年齢の1年前倒し(5歳児就学)で「1+5+4制度」に変更し幼児から中学校までの系統的カリキュラムにより指導
幼保一元化デザイン	乳幼児施設を1園に統合し、認定子ども園を設置し、教育カリキュラムを策定して系統的な乳幼児教育を行う
クラス構成デザイン	幼小中ともに少人数学級・教科担任制・習熟度別クラス・チームティーチングを行う
学習導入デザイン	首都圏に負けない学校教育以外の教育環境の構築
生徒寮設置デザイン	中学校4年生を全寮制とし、学力の充実と集団活動を通じた心身の調和の取れた発達と個性の伸長を図る
教諭公募デザイン	使命感に燃え、力量のある教員を配置するため、村費負担教職員を全国から公募し採用、積極的に幹部に登用していく
英語教育デザイン	乳幼児段階から年齢発達段階に応じた言語能力や表現能力、記憶能力を考慮した村独自の英語教育カリキュラムをもとに展開する
住民参画組織構築デザイン	保護者・住民・企業等が積極的に学校運営に関わり、参画・監視・評価・協力などを行う。また各PTA組織を一元化してNPO法人化する

同時に、そうした人材育成は、少子高齢化が進む中で、地域機能の再活性化を目指すものでもあった。こうした背景の中、東通村は、将来にわたる村づくりの基本的な戦略のひとつに「教育」を置くこととしたのであった。

この年、村長部局の企画部門に事務局を設置し、越善靖夫(こしぜんやすし)村長の諮問機関として「21世紀東通村教育デザイン検討委員会」を立ち上げた。

この「検討委員会」は、翌17年3月、総合教育プラン「教育環境デザインひがしどおり21」を策定し、越善村長に答申した。

学力向上と地域学習を重点にした施策

このプランの策定過程では、学校統合などについて、反対の立場をとる村民も多くいた。しかし、子ども達の学力向上を切望する保護者や、連合PTAの全面的な賛同・協力のもと、電源地域振興センター事業を活用しながら、ヒアリングやワークショップを重ね、アンケートを行い、プランの中に、そうした村民の理想

まず、平成20年4月に中学校を1

校に統合、翌21年4月に小学校を1校に統合した。平成24年には、9園あった乳幼児施設を認定こども園として1園に統合。緊密な連携を図るため、乳幼児施設・小学校・中学校を隣接設置し廊下でつなぎ、幼小中一貫教育の展開をハード面から整備した。

ソフト面では、主要教科の基礎・基本を固め、就学前教育と義務教育をつなげる「1+5+4制度」を目指した、幼児から中学生までの系統的カリキュラムにより指導することとした。

そのための施策として、「東通村わが村の先生制度」特区の認定を受け、現在、村費負担教員を公募で13名採用し、小学校を25人程度の学級、

が盛り込まれることとなった。プランの目標は2つ。「21世紀の国際的リーダーと村をリードする次世代の優秀な人材を輩出する」と、「子どもを持つ世帯に魅力的かつ先進的な教育の村として確立し、定住志向を高め、県内外からの移住取り込みを図る」というものだ。その基本的な方向性は、「人づくりのため

中学校を29人以下の学級とする少人数学級体制を敷いた。同時に、小学校の段階から主要教科で習熟度別クラス、チームティーチング、教科担任制を導入した。

また、平成19年の「東通村英語教育特区」の認定により、小学校1年生から英語科を設置し、日本人英語教員、外国人英語講師、学級担任の3人体制で英語活動を行っている。特に、国際感覚の育成と英語によるコミュニケーション能力の向上を目標に、小学校段階ではトーキング力・ヒアリング力等の向上を図っている。昨年度に開設したこども園でも、村が外国人英語講師を派遣し、英語活動を行っている。

英語教育とともに、村独自の「東通学」を総合的学習の時間に取り入

の学力の充実」ということにある。平成30年までの具体的な数値目標も掲げられ、その実現のために、保護者・住民・学校・行政が一体となって取り組んでいくことが必要であるとされた。

村も教育委員会に「教育政策室」を設置し、8つの骨格デザインの詳細化を図る体制を整えた。

さらに、平成17年に全国初となる

民間学習塾が村からの委託による運営を行い、低廉な受講料(月2,000円程度)とした。現在、中学生を対象に週3回、英数国理社の主要5科目を120分と90分の2コマで開いている。

小学2年生のクラス



小学2年生のクラス

5年目を迎え 確実に成果が上がってきた

平成25年度、東通村の小中一貫教育は5年目を迎えた。

「当時、村の子ども達は都市部に比べると、具体的な目標がイメージできないでいたかもしれない。そこを解決しなかったのです」

東通村教育長の奥島涼子さんは、この5年を振り返る。

「もともと学習意欲が高い子ども達でしたので、平成23年度から県の学力状況調査では、小学校は県平均を上回ってきています。中学校の進学の質も上がってきました。着実に成果は現れてきていると思います」
また、「東通学」も成果を見せ始めている。

『地区の子ども』というより、『東



東通村教育長
奥島 涼子 さん



東通小学校長
伊西 繁利 さん



東通中学校長
三山 悟 さん



こども園ひがしどおり 園長
坂崎 隆浩 さん

通村の子ども』という意識が育ってきている」と、東通小学校長の伊西繁利さんは言う。

「こうした地域

学習はとても大事だと思います。今年、成人式で、統合した中学校で育ち、村内外にいる子ども達と再会しましたが、統合前に比べて、『東通村の子ども』という意識と、『東通村の出身』という誇りが出てきたように思えます」

また、東京都北区の小学校との交流を10年間続けてきているが、物怖じせず都会の子ども達と交流できるようになってきたという。

「英語のコミュニケーション能力をはじめ、成績は確かに上昇していますが、何よりも子ども達の視野が広がってきたことが大きな成果です」と、東通中学校長



(上)「東通学」プログラムの成果発表
(下)「東通学」プログラムで東京都北区の小学校との交流発表

の三山悟さんも語る。

「また、一般的に学校統合がある地域、学校のプライドがぶつかることから、学校が荒れる場合が多いのですが、全くそうはならなかった。そうすると進学の質も上がります」

県内進学校へ合格を勝ち取る子ども達も増加してきた。

部活動も活発だ。吹奏楽部は全国大会出場、野球部も県大会で2位の成績を収めている。

現在、224名の乳幼児が通う認定こども園「こども園ひがしどおり」

学校・学習塾・PTAが協働で推進

英語のコミュニケーション能力向上を目指す授業でも、村独自の「英語教育プログラム」を作成しており、その内容は、習熟度に応じた言語能力や表現能力、記憶能力を考慮した



こども園の授業風景

でも、5歳児教育を進めている。「こども園ひがしどおりメソッド」に基づき、乳幼児の保育・教育にあたる。「きらきらタイム」という時間を設け、体育・絵画・音楽・英語・習字・東通学などの活動を行っている。

園長の坂崎隆浩さんは「就学前の教育はとても大事で、乳幼児の時代から生きる力を獲得することを目標にしています」と言う。

きめの細かいもの。

現在、英語科の専任講師と、外国人英語講師（ALT）2名を村費で採用して、こども園の3歳児から小学校・中学校の全学年で英語活動・

英語教育を行っている。

東通小学校で英語科を担当する常勤講師の西山絵夢さんは、東通村の出身。「東通村わが村の先生制度」で採用された。

「都会に出てみて、東通村の自然環境や食べ物、人情の深さなどに気づき、こっちに帰って来たいと強く思っていましたから、今は充実しています」と西山さんは言う。

また、外国人英語講師のひとり、シヨーン・スウィンガーさんは、米国カリフォルニア州レイク・タホ出身の29歳。秋田県の大学に留学し、一旦本国に戻ったが、本年度から、村が契約する民間企業のインタラック社を通じて派遣されてきた。

「着任した時の印象は『すごい田舎!』と思ったものだが、故郷のレイク・タホに似て景色が良いし、生徒や人々もフレンドリーで、とても

楽しい」と言う。

全国で初めてという公設学習塾の東通村学習塾も当時、大きな話題を集めた。委託されているむつ市の「早稲田進学会」は、平成17年以降、行政・保護者と一体となって運営してきた。

「この事業に参画したきっかけは、平成16年度に開催された『教育デザインひがしどおり21』のシンポジウムに参加したこと。壇上に上がった東通村の保護者が、東通村の教育を熱く語り、村を良くしていこうという気持ちが伝わってきたからです。ぜひ、そのお手伝いをしたいと思うようになりました。そうした保護者の皆さんの支援に支えられており、本当に感謝しています」

代表の宇野浩次さんは、こう振り返る。その指導方法は、合理的にものを考えるところ。子ども達に考える力を身につけさせることを重視している。

P T Aもこの教育デザインに積極的に参画している。連合P T A会長の佐藤謙二さんは、「学校統合については当初、それぞれ環境や習慣が違う集落ごとに学校



(上) 小学校の英語授業風景。担任、英語講師、ALTの3人で受け持つ
(中) 中学2年生のクラス風景
(下) 中学3年生の学習塾風景

があつたので、村内で抵抗がありました。保護者達もお互いを良く知るといふことから始めましたが、学力のレベルが伸びてきたこともあって、今は良かったと思っています。課題は、大きな学校になって、学校任せ、P T A任せになる傾向があること。これからは、地域・家庭での教育が

大事になってくる」と語る。東通中学校長の三山さんも「保護者・学校・行政がそれぞれの役割を明確にして、自発的な教育が必要になってくる」と言う。さらに、「そうした時に、東通村の人間として、どう生きていくかを考える新しい村民ができていくでしょう」と期待する。

むらびぐりの土と人々の教育デザイン

教育政策室長の菊池敬世さんは、越善村長のもとで、当初から教育デザインに携わった。

「教育デザインの成果は、様々述べられたように、学力の向上に伴い、子ども達の進学状況の質が向上していることです。村の子ども達には自らの夢に向かって努力し、そして夢を達成し、社会で大きく羽ばたいてもらいたいです」と、菊池さんは語る。

能を維持し存続させていくためには、地域が自ら、様々な分野・職種のエキスパートを育て上げていかなければならない。それには、子ども達の知力を徹底的に高め、知力を土台として、徳力・体力を相乗的に大きく伸ばさせ、自らの夢を達成する力を育成する必要があります」と言うのだ。

「東通村学習塾」の授業風景



東通小学校 英語科常勤講師
西山 絵夢 さん



外国人英語講師
シヨーン・スウィンガー さん



早稲田進学会 代表
宇野 浩次 さん



連合PTA会長
佐藤 謙二 さん



授業を受ける中学生たち



英語授業を受ける小学生たち

「各界で頑張るといふことは、村を離れていく、ということにもつながりますが、そのうち何人かでも村に住み、また、将来は帰って来て村づくりの中心を担ってくれることを期待しています」とも言う。

学校側のハード、ソフト両面の整備は進んでいるとあってよい（下図参照）。

これからの課題は、地域・家庭での教育をどのように向上させるかが鍵となってくる。

「保護者・地域・学校・村が一体となつて考え、ともに行動・実践することが重要であり、村全体で子ども達のことを考えていく教育環境を作り出す必要があると思います。保護

者・地域・企業等の気運を高めたがら協働を保つていくことが重要だと感じています」と、菊池さんも語る。

東通村の教育改革は、本年度で5年が経過した。

教育は成果が見えにくく、多大な財源も要する。しかし、越善村長は教育を村の主要政策に掲げ、村の子

「教育環境デザインひがしどおり21」の施策概要



※赤字は平成26年3月現在の施策進捗状況

でも達がそれぞれの夢を実現し、大きく羽ばたいていくことに想いをはせ、「村の将来を担うのは、無限の可能性を持つ子ども達である」との強い信念から、他分野に優先して財措置を行っている。

また、教育デザインはスタートしたばかりだが、全国的に見て、学校

教育制度のあり方を含めた、教育改革の動きは、大きなうねりになってきている。東京都品川区や広島県呉市をはじめとした事例もある。

本州の最北端で人口7,000人余りの小さな自治体が、「子ども達の未来に希望を持ち、「教育立村東通村」に向けて進む姿は、注目に値する。

教育制度のあり方を含めた、教育改革の動きは、大きなうねりになってきている。東京都品川区や広島県呉市をはじめとした事例もある。

本州の最北端で人口7,000人余りの小さな自治体が、「子ども達の未来に希望を持ち、「教育立村東通村」に向けて進む姿は、注目に値する。

学校・家庭・地域住民の 連携協力の必要性

我が国の「教育力」の低下が挙げられている。

「人を教え育てる力＝教育力」が「学校教育」「家庭教育」「地域教育」それぞれにおいて低下しているという指摘である。

背景には、少子高齢化や核家族化、グローバル化の進展など、社会構造の変化があり、家庭教育においては、保護者の多様化、学校教育への過度な依存による学校の役割の肥大化、地域社会への積極的な関わりの希薄など、その原因は様々で極めて重層的だといわれる。

平成18年に施行された新しい教育基本法では、「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」を行う努力義務が規定された。

また、平成20年の社会教育法の改正では、「社会教育の推進を通して、学校・家庭・地域住民の三者の連携協力を図る」ことが、国および地方公共団体の任務として明確に位置づけられた。

それを受け、学校・家庭・地域社会の三者が、それぞれの責任と役割を果たしながら、連携と協力を推進して、教育機能の相互補完と相乗効果を目指す事例が増加している。

これまでも、学校・家庭・地域社会との間では、それぞれ個別に様々な連携作業が行われてきた。学校と家庭の間では、学校の情報公開をはじめとして、保護者による学校支援システムなどがある。また、学校と地域社会との間では、積極的な学校開放や、地域人材を活用した授業などが全国で推進されている。そして、家庭と地域社会との間では、子育て支援システムや、家族で地域活動に参加できる地域スポーツの推進、「子どもセンター」の設置などだ。

多様な主体が参画できる 仕組みづくりを

こうした流れは、「地域全体で子どもを育てる」という考え方に進化発展して、さらなる連携・協力のために、PTAのみならず、女性団体、高齢者団体、NPO法人、企業など、教育や子育てに関わろうとする組織や教育機関、

個人が参画できる「仕組み」の必要性が叫ばれるようになってきている。

東京都や兵庫県、北海道では、こうした三者連携のネットワークとして「プラットフォーム」事業を行っている。その中間支援組織を立ち上げて、コーディネート作業を行い、家庭・学校・地域住民の課題解決に向けたマッチングを行うことで、地域全体の「教育力」を高めていこうとするものだ。

具体的には、こうした「仕組み」をつくることによって、子育てに関わる人の孤立感・不安感を取り除き、学校教育では、学校行事の実施、学校評価、外部専門家による協力などが可能となる。また、地域においても、教育を媒介に多様な組織や個人の参画によって、地域の活性化が図られていく。

前述した社会教育法の改正では、社会教育には家庭・地域をつなぐ機能があるとされ、社会教育の重要性が強調されている。

ただ、その課題も多い。地域住民の中に、「地域で子どもを見守り育てる」という意識を普及させることをはじめ、地域で共有化できる教育目標の設定、既存事業の整理統合などが挙げられる。

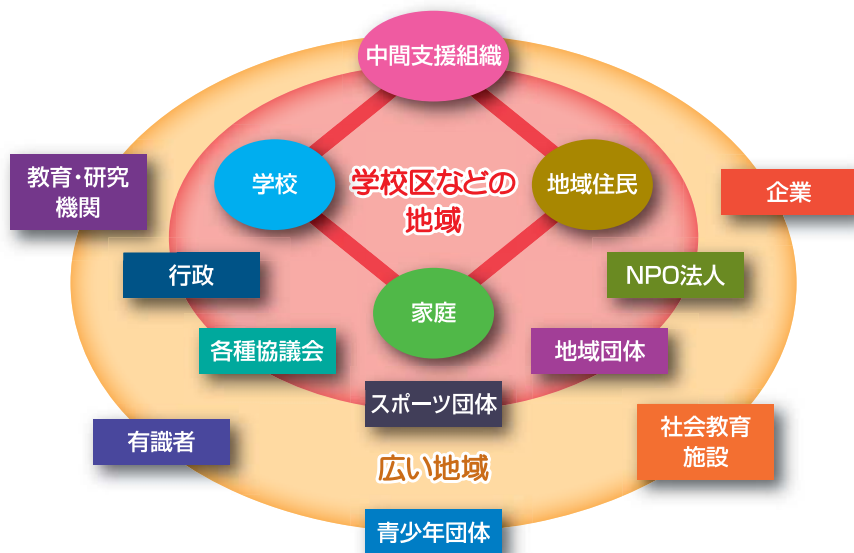
私たちは、地域振興を語るとき「地域力の向上」をよく口にする。

一般的に地域力とは、「地域の構成員が地域の諸課題を解決し、地域価値を創造していく力」をいう。

それと密接に絡み合うのは、地域の「教育力」であろう。地域の教育力の低下は、地域力の低下を招く。持続的な地域振興の「土台」は「地域の教育力」にあると言っても過言ではあるまい。

幸いなことに、我が国には、古から「まされる宝、子にしかめやも」というDNAが存在し、また「米百俵」という伝統があるのだ。

教育支援活動を支える仕組み(ネットワーク)のイメージ



平成26年のイベントカレンダー

電源地域 情報 ひろば

「電源地域情報ひろば」は、各市町村で開催されるイベントや伝統的なお祭りなどの情報をまとめて掲載するコーナーです。今回は4～6月の情報です。読者の皆様方で掲載のご希望がございましたら、電気のふるさと編集室までお知らせください。自薦、他薦を問わず受け付けています。なお、掲載にあたり費用が発生することはありません。(編集の都合上、掲載できない場合がございますことを予めご理解願います)

■地域振興部 振興業務課 電気のふるさと編集室
☎03-6372-7305 E-mail : furusato@dengen.or.jp

4月	桜流鎬馬(青森県十和田市) →
	花換まつり(福井県敦賀市)
5月	★松江武者行列(島根県松江市)
	★淀姫神社金比羅大祭(佐賀県玄海町)
	御前崎カツオのぼり(静岡県御前崎市)
	前略 道の駅から 春の神恵内 魅力みせ鱒 (北海道神恵内村) ※予定(5月中旬の週末)
6月	サン・ファン祭り(宮城県石巻市) →
	→ ひたち国際大道芸(茨城県日立市)
	→ 青柏祭(石川県七尾市)
	→ 阿久根はな*HANA*華まつり (鹿児島県阿久根市)
	★ 佐田岬ふるさとウォーク2014 (愛媛県伊方町)
	御前崎カツオのぼり(静岡県御前崎市)
6月	★ 我歴 stock in 女川 (宮城県女川町)
	100万人のキャンドルナイト in 只見 (福島県只見町) ※予定(6月中旬)
	→ えんま市(新潟県柏崎市)
6月	第26回あじさいまつり (佐賀県唐津市)
	御前崎カツオのぼり(静岡県御前崎市)

いしのまき 石巻市

宮城県

活気あふれる ～サン・ファン祭り

「サン・ファン祭り」は今から約400年前、伊達政宗公の命によりヨーロ



石巻市の春の最大のイベント

ッパへ渡った慶長使節の偉業を後世に伝え、子どもたちの情操を培うことなどを目的としたイベントです。

ステージでは地元児童による鼓笛隊、チアリーディングや吹奏楽、獅子舞などが華やかに披露され、会場内ではふわふわドームや遊具などのちびっこ向けの企画も実施されます。

【開催日】前夜祭 5月24日(土)、当日祭 25日(日)
【開催場所】石巻市サン・ファン・パウティスタパーク(石巻市渡波)
【問合せ先】事務局(サン・ファン館) ☎0225-24-2210
【URL】www.santjuan.or.jp

とわだ 十和田市

青森県

日本で唯一、女性限定の大会 ～桜流鎬馬

かつて南部地方と呼ばれ、南部馬の産地として名を馳せ、今もなお市民の馬に対する愛着がある十和田市で約10年前に始まったイベントです。



華麗に馬から弓を射る女性

日本古来の伝統武芸である流鎬馬を、女性も楽しめるように競技化したものです。

桜が満開の会場に、全国から一同集った女性騎手が豪華潤かな衣装を身にまとい、馬を駆けながら華麗な技術で弓を射る姿は、訪れた花見客の心も射止めてしまいます。

【開催日】4月26日(土)、27日(日)
【開催場所】十和田市中央公園緑地
【問合せ先】十和田乗馬倶楽部 ☎0176-26-2945
【URL】www.jtng.com

かもえなむら 神恵内村

北海道

春の神恵内の魅力を満喫する ～前略 道の駅から 春の神恵内 魅力みせ鱒

「神恵内村魅力創造研究会(村内有志による情報発信・イベント企画等



「マスカーレー」の試食会

を通じて村の魅力を伝えていこうというグループ)」主催により、昨年度初めて開催されたイベントです。

神恵内村の観光拠点である道の駅「オスコイ!かもえない」で、春の郷土料理「マスカーレー」の試食会を始め、ホタテ焼きや串焼き、さらには地元菓子店による新スイーツ「揚げ饅頭」を味わうことができます。

【開催日】5月中旬の週末(予定)
【開催場所】道の駅「オスコイ!かもえない」
【問合せ先】神恵内村 産業建設課 ☎0135-76-5011
【URL】www.vill.kamoenai.hokkaido.jp

ひたち
日立市

茨城県

摩訶不思議な世界を体験
～ひたち国際大道芸

ジャグリング、パントマイム等の大道芸に加え、世界のフェスティバルで活躍するトップパフォーマーの芸術性溢れる大道芸が披露されます。



大道芸人のパフォーマンスに集う観衆

その他、観客へのフェイスペイントサービスや屋台等、様々な催しがあります。さらに夜会(夜の大道芸)ではファンタジックな雰囲気とダイナミックなパフォーマンスが体験でき、一日中満喫できるイベントです。

【開催日】5月10日(土)、11日(日)
【開催場所】日立市(日立会場、多賀会場)
【問合せ先】ひたち国際大道芸実行委員会
☎0294-24-7711
【URL】www.civic.jp

ただみまち
只見町

福島県

電気のありがたさを考える
～100万人のキャンドルナイト in 只見

福島県西部に位置する只見町は日本有数の豪雪地帯として知られています。



会場を照らすキャンドルの灯

雪解けの水量が豊富なため、只見町には5つの水力発電所があります。そんな只見町で、電気のありがたさを考えてみよう、毎年6月に開催されているイベントです。

高校生などのボランティアがキャンドルを並べて点灯する夜に只見町の名物、味付マトンケバブの出店等のイベントを、参加者みんなで楽しんでいます。

【開催日】6月中旬(予定)
【開催場所】只見川公園(予定)
【問合せ先】只見町観光まちづくり協会
☎0241-82-5250
【URL】www.tadami-net.com

おながわちょう
女川町

宮城県

若者達が音楽で故郷を盛り上げる
～我歴 stock in 女川

「音楽の力で女川町民を盛り上げ、復興の原動力にする」と女川の若者達が



イベントを盛り上げる実行委員の若者たち

中心となって企画・準備を行い、町内の各種団体も協力しながら開催する町民参加型のイベントです。

多くのアーティストが駆けつけ、歌あり、ダンスあり、演奏ありの充実したステージの他に獅子舞大乱舞も行われ、勇壮な舞いが繰り広げられるなど、参加者みんな音楽を聴きながら心地良い時間が流れていきます。

【開催日】6月1日(日)
【開催場所】女川町立女川小学校
【問合せ先】女川福幸丸(佐藤) ☎070-5321-2500
【URL】www.onagawa-fkm.com

つるが
敦賀市

福井県

桜の小枝を交換して愛を伝える
～花換まつり

桜の名所、金崎宮で行われる恋のお祭りです。



福娘から桜の小枝を受ける見物客

桜見物に訪れた男女が「花換えましょう」と声を掛け合い、授与されたお互いの桜の小枝を交換して思いを確かめ合うロマンチックな祭りです。

「花換え」をしたカップルは、将来幸せに恵まれるといわれていることから、毎年、大勢の若者で賑わいをみせます。

【開催日】4月1日(火)～15日(火)
【開催場所】金崎宮(敦賀市金ヶ崎町)
【問合せ先】敦賀観光協会 ☎0770-22-8167
【URL】www.turuga.org

なな お
七尾市

石川県

「でか山」を曳き廻す
～青柏祭

若葉が萌える5月に行われる、国指定重要無形文化財にも指定されている大地主神社(山王神社)の例大祭で、能登地区最大の祭礼です。



「でか山」の曳き回しの様子

「でか山」と呼ばれる高さ12m、重さ20tの日本一大きな山車3台が、狭い町中を曳き廻されます。

そして、5月4日には大地主神社で、5日には能登食祭市場と仙対橋付近に3台の「でか山」が勢ぞろいします。また、訪れる人が山車を引くことができるのも、この祭りの魅力です。

【開催日】5月3日(土・祝)～5日(月・祝)
【開催場所】七尾市中心部
【問合せ先】七尾市観光交流課 ☎0767-53-8424
【URL】www.city.nanao.lg.jp

かしわざき
柏崎市

新潟県

500店以上の露店が立ち並ぶ
～えんま市

始まりは約200年前とも、300年余りの伝統があるとも伝えられている伝統行事です。



えんま市の賑わいの様子

元々は柏崎市半田にあった閻魔堂の馬市だったものが、江戸時代後期の文政年間には露天が立ち並ぶ縁日の形態になったと伝えられています。

祭りが6月中旬に行われることが、全国の露天業者が集うのに好都合だったため、現在では閻魔堂のある本町通りを中心に、全国各地から集まった約500軒もの露店が数kmにわたって立ち並び、期間中、県内外から20万人以上の人出で賑わいを見せます。

【開催日】6月14日(土)～16日(月)
【開催場所】柏崎市東本町、西本町、ニコニコ通り
【問合せ先】柏崎市観光交流課 ☎0157-21-2334
【URL】www.city.kashiwazaki.niigata.jp

素晴らしい景色を堪能
～佐田岬ふるさとウォーク2014

このイベントは地元出身の冒険家、故河野兵市氏の北極点単独歩行を記念し



ウォーキングを楽しむ参加者の方々

て始まったもので、今年で16回を数えます。

コースは隣の八幡浜市から約45kmを踏破するものから、伊方町内を歩く約7kmの短縮コースなど、距離が異なる複数のコースがありますが、いずれも道中、宇和海や瀬戸内海を望む素晴らしい景色を眺めながら、日本一細長い佐田岬半島の魅力を感じ取れるとあって、毎年、町内外から多くの方が参加します。

【開催日】5月17日(土)

【開催場所】八幡浜市～伊方町三崎地区

【問合せ先】伊方町産業振興課 ☎0894-38-0211

【URL】www.town.ikata.ehime.jp

絢爛豪華な時代絵巻
～松江武者行列

「松江武者行列」は松江開府の祖、堀尾吉晴公とその一行が松江



松江武者行列の様子

城に入城する様子を再現した、絢爛豪華な時代絵巻です。

毎年、勇壮な武者や色鮮やかな姫などに扮し大勢の市民が参加し、松江城を目指し、桜咲く松江市内を練り歩きます。

当初は秋に開催されていましたが、現在では城下町松江の春の風物詩として、市民や観光客にも知名度が浸透し、当日は多くの観客で賑わいます。

【開催日】4月5日(土)

【開催場所】白瀧天満宮前～松江城

【問合せ先】(一社)松江観光協会 ☎0852-27-5843

【URL】www.kankou-matsue.jp

空高く泳ぐ姿を楽しむ
～御前崎カツオのぼり

端午の節句に合わせて、あらかじめオーナー申込みをされた方々の「カツオ



空高く泳ぐ「カツオのぼり」

のぼり」を、お子様の成長を祝って掲げるイベントです。

カツオのぼりはどの方でもオーナーになることができ、しかもお腹にお子様の名前やメッセージを入れることができます。

「カツオ」は御前崎市の特産物であり、たくさんのカツオのぼりが空高く泳ぐ姿は悠然としたものです。

【開催日】4月26日(土)～6月8日(日)

【開催場所】御前崎観光物産会館「なぶら館」

【問合せ先】御前崎観光協会 ☎0548-63-2001

【URL】www.omaezaki.gr.jp

商店街活性化への新しい取り組み
～阿久根はな*HANA*華まつり

阿久根中心部の3つの商店街が人々の移動の多いゴールデンウィークに市内



本町通り歩行者天国での様子

外から大勢のお客さん呼び込むことができないかと実行委員会を作って、阿久根商工会議所主催で昨年初めて実施したイベントです。

各商店街に足を運んでもらうため、商品を販売するだけでなく、それぞれの商店街が独自で魅力あるイベント(ワンコイン、スタンプラリー、ステージイベント等)を企画・開催します。

【開催日】前夜祭 5月2日(金)、当日祭 5月3日(土・祝)

【開催場所】駅前通り商店街、本町通り商店街、大丸通り商店街

【問合せ先】阿久根商工会議所 ☎0996-72-1185

【URL】www.akune-cci.or.jp

豊漁を願う
～淀姫神社金比羅大祭

「淀姫神社金比羅大祭」は玄海町外津地区で行われる海上安全、大漁を祈願



勇壮なパレード

するお祭りです。

神社での神事のあと、小学生の巫女、昔ながらの衣装を身につけた厄年の人たちが曳く宝船の曳山、御神体を乗せた神輿が海岸線を練り歩きます。その後、巫女と神輿を乗せた漁船とお供船の勇壮な海上パレードが行われますが、外津橋からの眺めは一見の価値があります。その他、「みちふり」や巫女舞等が行われます。

【開催日】4月13日(日)

【開催場所】淀姫神社周辺(玄海町外津)

【問合せ先】玄海町 産業振興課 ☎0955-52-2199

外津漁協 ☎0955-52-6103

【URL】www.town.genkai.saga.jp

滝の音と花の美しさを楽しむ
～第26回あじさいまつり

見帰りの滝周辺で約1ヶ月にわたり開催されます。滝周辺は遊歩道が整備



見帰りの滝とあじさいの花

されていて、約50種4万株の色とりどりのあじさいをゆっくりと見ることができます。

夜間は滝のライトアップも行われ、珍しいあじさいの展示や、スケッチ大会も実施されます。また、滝周辺の料理店では、滝の音と美しい景色の中で鰻料理を味わうことができます。

【開催日】6月7日(土)～29日(日)

【開催場所】見帰りの滝周辺(唐津市相知町)

【問合せ先】唐津観光協会 相知支所 ☎0955-51-8312

【URL】ouchi.fhl.ne.jp/

町の活性化と“再生に” 向けた各地の取り組み

このコーナーでは電源地域各地の地域振興に向けた話題を取り上げています。今回は奈良県十津川村のほか、福島県双葉町、福井県美浜町、大都市圏で開催されたイベントの話題をお届けします。



ト レイルランニングを 観光集客の目玉に

奈良県十津川村で、平成25年12月1日(日)、十津川村トランニングコース試走会「トレイルランニングin十津川」が開催された。

今回走ったコースは、山中を走るために整備された全長16.5kmのコースで、約30年前まで使われていた生活道。「道普請ツアー」などのボランティアの協力を得て、25年6月から山道をふさぐ倒木などを人力で排除し、高低差630mの新コースとして整備した。今回の試走会は、トレイルランナーの横山峰弘氏や松永紘明氏らを講師に招いて開催された。

奈良県十津川村



十津川村では、熊野古道の周辺を走る「トレイルランニング」を、新たな観光集客のひととして位置づけている。「トレイルランニング」とは、文字通り登山道などの未舗装の山野を走るもので、クロスカントリーとは違い、専用のリュックに必要な装備を入れて走る。近年、ランニングブームや自然志向もあり、新しいスポーツとして注目されている。現在、日本で開催される有名なト

レイルランニングは、「信越五岳トレイルランニングレース」や「トランス・ジャパン・アルプス・レース」などが知られている。海外では、ヨーロッパ最高峰モンブランを取り巻く山岳地帯を走る「ウルトラトレイル・デュ・モンブラン」が有名だ。今年秋には、十津川温泉郷「源泉かけ流し宣言」と世界遺産登録「紀伊山地の霊場と参詣道」の10周年を記念し、十津川村内でのトレイルランニング大会が開催される。



山中を走るランナーたち

古 里の誇りを絶やさず 未来につなぐ双葉町ダルマ市

江戸時代から続く正月伝統行事である「双葉町ダルマ市」が、1月11日(土)、12日(日)の両日、避難先のいわき市南台仮設住宅イベント広場で開かれた。震災後3回目の開催になったこの「ダルマ市」には、県内外

に避難している人たちが地域の人々など延べ7,000人が訪れ、大盛況のイベントとなった。

これは、双葉町消防団第二分団の有志でつくる「夢ふたば人」(佐々木希久会長)が「古里の誇りを絶やさず、未来につなごう」と、県のサポート事業を活用して開催した。会場では、「双葉ダル

福島県双葉町



若者たちが担ぐ「ダルマ神輿」

(上)「へしこちゃん」による町のPR
(下) 特産品等を求める来場客



名古屋山総合駅で 町単独の物産フェアを開催

福井県美浜町

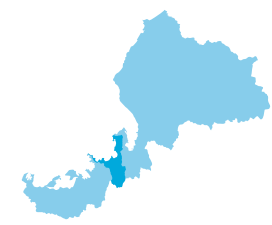
「マ」をはじめとする露店が並ぶなか、若者たちが担ぐ「ダルマ神輿」や「子ども神輿」が練り歩いた。また、奉

納神楽や民俗芸能、フラダンス、大道芸人のショーなどが披露され、大きな盛り上がりを見せた。

2月2日(日)名古屋山総合駅構内で、福井県美浜町が「福井県美浜町観光物産フェア」を開催した。金山総合駅は、JR東海道線、JR中央線、名鉄名古屋本線、市営地下鉄名城線・名港線が乗り入れる総合駅で、名古屋駅に次ぐ規模のところ。

当日は、美浜町の特産品「へしこ」をはじめ、干物や町産の「コシヒカリ」、チーズケーキが売られ、町のゆるキャラ「へしこちゃん」も登場して、日曜日に行き交う多数の乗降

客にアピールした。



今回の物産フェアは、本年の「舞鶴若狭自動車道」全線開通に向けた、中京圏の消費者向けのもの。開通すると名古屋から美浜町まで1時間20分の所要となり、関西エリアでは、観光地としての知名度の高い美浜町を、中京圏にまで広げようとしている。

首都圏で地域産品の 販売促進イベントが相次ぐ

1月10日(金)から19日(日)まで、「ふるさと祭り」が東京・文京区の東京ドームで開催され、10日間で40万人を超える来場者で大盛況のイベントとなった。最終日には「第5回全国ご当地どんぶり選手権」の結果発表があり、今回グランプリに輝いたのは山形県米沢市の「米沢牛ステーキ丼」。柏崎市の「鯛茶漬け」は惜しくも2位で、昨年に続く2連覇を逃した。

また、1月11日(土)、12日(日)の両日には、東京・有楽町の東京国際フォーラムをメイン会場に「町イチ! 村イチ! 2014」が開かれた。来場者は5万2,000人を超え、郷土料理や地域の名物行事、伝統行事、ご当地キャラのパフォーマンスなどで盛り上がる大型イベントとなった。

全国町村会の主催で、全国629町村のうち342の町村が参加し、観光資源のPRや特産品の販売を通して、首都圏の消費者にアピールを行い、同時にデパートなどの商談会も開催さ

れた。「町村から日本を元気にする」という趣旨で開催された今回のイベントだが、2011年に続き2回目の開催で、入場者数は前回の3万5,000人を大きく上回った。



来場者で賑わう「町イチ!村イチ! 2014」



柏崎市「鯛茶漬け」ブース(「ふるさと祭り」)



**「地域のじまんづくり」
事業の第3回「共有全体
会議」が開かれました**

経済産業省の「平成25年度原子力発電施設広聴・広報等事業（立地地域経済支援広報事業）」の「地域のじまんづくり」事業は、全国14の原子力立地市町村・地域が参加していますが、平成26年2月21日（金）に第3回「共有全体会議」が開かれました。

この事業は、原子力発電所所在の「立地地域の経済・雇用の活性化を図るため、地域資源の再発見とブランド力の強化を図る産品・サービスの開発、販路拡大等の地域の取組を支援し、もって、立地地域への集客向上、雇用の確保、経済の活性化等につなげることを目的とするもの。



参加地域からの発表光景

今年度は、地域ならではの魅力を発見から商品開発などに取り組みむと同時に、地域資源の再発見と地域ブランド力の強化を主軸とするものでした。今回開かれた「共有会議」では、すべての地域から、その成果の発表が行われました。

各地域からは、産品の開発事業主体の育成や、新しい産品の試作品開発、開発した産品やメニューの販路を開拓した例などが発表され、それぞれが推進した事業の「手ごたえ」が感じられるものとなりました。

今後は、参加市町村・地域が、本年度につかんだ「手ごたえ」をさらに拡大させ、発展的に継続させていく仕組みを作っていくことで、一致をみました。

【お問合せ】地域振興部 振興業務課
☎03-6372-7305
eメール：hanbai@dengen.or.jp



「専門家派遣事業 北海道神恵内村」楽しく学ぼう！エネルギー＆放射線教室」を開催しました

電源地域振興センターでは、電源地域が抱えている課題の克服や問題の解決に向けて、各分野の専門家が現地指導を行う『専門家派遣事業』を行っており、この度、平成26年1月18日（土）に北海道神恵内村において、村内の小・中学生を対象にした「楽しく学ぼう！エネルギー＆放射線教室」を開催しま



熱心に講師の話を聴く子供たち

した。

この教室では、発電の仕組みや特徴、エネルギーと環境の関係、放射線に対する基礎知識等について、実験を通して子供たちが楽しみながら学ぶことを目的に実施しました。

特に、霧箱を使った放射線の観察実験では、実際に各自が観察用の霧箱を作り、その中に放射性物質を入れ、放射線の様子を観察しました。また、半減期が短いラドンガスを使い、放射性物質が変化していく様子や簡易放射線測定器での放射線量の測定を通し、放射線や放射性物質の特性を学びました。今回の教室では、参観いただいた保護者の方にもご協力いただきながら、皆で和気あいあいと実施することができました。



楽しく実験に参加する子供たちと保護者たち

【お問合せ】地域振興部 振興調査課
☎03-6372-7306
eメール：senmon@dengen.or.jp



**第43回 電源地域
振興担当者講習会を
開催しました**

平成26年1月17日（金）、東京・築地のJJK会館で、第43回電源地域振興担当者講習会を開催しました。

当日は、当センターの平成26年度事業についてのご案内に続き、資源エネルギー庁原子力発電・立地対策広報室長と、電力基盤整備課企画調整第一係長から、国の広報事業や平成26年度の電源立地地域対策費予算などの説明をしていただきました。

その後、鹿児島県薩摩川内市観光・

シテイセールス課長の古川英利氏から、「きゃんぱく」等の観光を中心としたシテイセールスの取り組みについての講演をしていただきました。出席者は、先進的な施策として知られる、この薩摩川内市の「観光もりあげ作戦」のお話を熱心に聴き入っていました。

【お問合せ】総務企画部 総務企画課
☎03・6372・7311
eメール：soumu@dengen.or.jp



講演会のほか、当センターおよび国の26年度事業の説明を行った



薩摩川内市・古川 英利氏



補助金関連事業のご案内

① 原子力発電施設等周辺地域企業立地支援事業

原子力立地地域における雇用機会の創出と産業振興を図るため、一定の雇用増加を生む企業に対して、立地後一定期間、電気料金の実質的割引に相当する補助金を交付する制度です。

【お問合せ】総務企画部 立地審査課
☎03・6372・7307
eメール：riti@dengen.or.jp

② 原子力立地給付金等交付事業

1. 原子力立地給付金等交付事業
原子力発電電用施設の所在市町村またはこれに隣接する市町村をその区域に含む道県から、原子力立地給付金交付事業補助金の交付を受け、これを一般電気事業者ならびに特定規模電気事業者（PPS）を通じて、交付対象市町村の住民および企業などの需要家に交付する事業を実施します。

今後も国ならびに道県との連絡・調整を緊密に行い、電気事業者との協調体制を図り、円滑な事業の実施に努めます。

2. 加算等給付金交付事業

原子力立地給付金とは別に、地方自治体が給付金加算等措置として、加算給付金の交付を実施する場合においても、当該自治体から補助金の交付を受けて、原子力立地給付金と同様に実施

します。

【お問合せ】総務企画部 給付金審査課
☎03・6372・7309
eメール：kyuufukin@dengen.or.jp



「電気のふるさと」Webマガジン化(予定)のお知らせ

当センター広報誌「電気のふるさと」は、平成26年6月発行号から「Webマガジン」(予定)として、皆様方にお届けすることになりました。長い間印刷刊物物として読者の皆様方にご愛読いただき、大変ありがとうございました。今後は、Webマガジンとして新たに生まれ変わることになります。今後ともご愛読のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、「Webマガジン・電気のふるさと」を購読希望の方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

【お問合せ】電気のふるさと編集室
☎03・6372・7306
eメール：furusato@dengen.or.jp



今号のWebアンケートプレゼント

「電気のふるさと」編集室では、今後のより良いコンテンツ作りのため、Webアンケートを実施させて戴いております。多くの皆様のご意見をお聞かせいただければ幸いです。

なお、アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で2名の方に今号の特集で紹介した青森県東通村の「特産品セット」をプレゼントいたします。このセットは、東通村の特産であるブルーベリーのジュース、ジャムのほかに『東通和牛』のビーフジャーキー、サラミソーセージなど。

■アンケート回答方法

当センターのホームページの入力フォーム内のアンケートにご記入のうえ、「送信」ボタンを押して送信してください。

×切は平成26年4月30日(水)。当選の発表は発送(平成26年5月下旬予定)をもって代えさせていただきます。

【アンケートおよびプレゼントに関するお問い合わせ】電気のふるさと編集室

☎03・6372・7305
ホームページ：www2.dengen.or.jp/html/leaf/furusato/furusato.html
eメール：furusato@dengen.or.jp



東通村「特産品セット」

電源地域 振興センター事業

活用 事例 紹介

当センターが展開する各種事業の平成25年度における「現地開催型 産品相談・商談会」は5回の開催予定のうち、2月末現在で4回開催されています。

和歌山県田辺周辺広域市町村圏組合、鹿児島県薩摩川内市、徳島県三好市「三好ブランド構築委員会」、愛媛県大洲市物産協会、といった方々の主催で行われました。

和歌山県田辺周辺広域市町村圏組合は、平成23年から毎年開催しており、「特産品」の開発・販路拡大を目指すものとして、5回を数え、圏内の事業者には、すっかり定着した「相談・商談会」となっております。今年度は、19の生産者・事業者が参加して開催されました。

先進的な「シティ・セールス」事業で知られる鹿児島県薩摩川内市では、12の事業者が参加して、観光PRおよび産品開発、販路拡大についてのアドバイスを受けました。なかには、全国的に通用する産品の可能性との評価を受け、ブラッシュアップを行い、展示会への出展の機会を得た事業者もいました。

徳島県三好市は、特産品のブランド化を推進していますが、パッケージや包装紙のデザイン訴求力が課題となっていました。5事業者が参加した今回の「相談・

参加者の時間的・費用的負担が軽減される 「現地開催型 産品相談・商談会」の活用

当センターでは、流通関係者をアドバイザーとして招聘し、地域特産品の開発・改良および販路拡大についての具体的なアドバイスを行う「産品相談・商談会」事業を行っています。この事業は、年4回、定期的に行うもの、随時に開催するもの、現地開催型の産品相談・商談会の3種類のメニューを用意しております。

そのうちの「現地開催型 産品相談・商談会」は、ご希望のアドバイザーを派遣して面談を行うものです。面談の他に講演会や製造現場視察などを組み合わせることも可能となっています。

商談会」では、新商品として開発された「大福もち」のパッケージや、特産品である「三野はれひめ」というみかんの箱のデザインなどについて、アドバイザーから指摘があり、参加者は包装デザインの重要性などを知る良い機会となりました。また、なかには「ギフト商品」として展開する可能性を見つけた商品もありました。

愛媛県大洲市では、市内で製造・加工される商品や、基準に適合する品質等を備えた農林水産物を「大洲ええモンセレクション」として認定し、流通拡大と地域産業の活性化を図っています。今回は「食の相談・商談会&講演会in大洲」と題され、9事業者が参加して、バイヤーとの間で活発な商談を繰り広げ、地元のケーブルテレビも取材に来る盛況ぶりでした。商談会に続いて開催されたバイヤーによる講演会では、首都圏における魅力的な商品や、百貨店におけるギフト商品の現況などについて話がありました。

参加者・受講者からは「商品開発の大きなヒントになった」という声も聞かれ、大洲の特産品のレ

認定マーク



大洲市講演会



ベルを、ますます上げていく契機となったようです。

このように、「現地開催型 産品相談・商談会」は、地元で実施することで、参加者の時間的・費用的負担が軽減され、現地訪問によりバイヤーの地域への認知度が向上し、実施後もバイヤーと相談・商談しやすい関係の継続が期待できるものです。

平成26年度も、「現地開催型 産品相談・商談会」の開催を随時受け付け、各種ご相談に応じます。ぜひ、この機会に下記までお気軽にお問合わせください。

■地域振興部 振興業務課

☎03-6372-7305

eメール: hanbai@dengen.or.jp



田辺市



薩摩川内市



三好市